

オカムラの存在意義 (パーパス)

# 人が生きる社会の実現

一人ひとりが「生きる」ことこそが、  
持続可能な社会の実現につながる。  
その信念と使命感のもとに、オカムラは、すべての人々が  
笑顔で生き活きと働き暮らせる社会を実現していきます。

オカムラのミッション

豊かな発想と確かな品質で、  
人が生きる環境づくりを通して、  
社会に貢献する。





## 受け継がれる オカムラスピリッツ

1945年、技術者たちが、資金・技術・労働力を提供し合い  
「協同の工業・岡村製作所」としてスタート。

「よい品は結局おトクです」をモットーとして、  
果敢な挑戦への情熱とチームワークを発揮。

オフィス環境事業、商環境事業、物流システム事業、  
パワートレーン事業を展開し、  
クオリティの高い製品とサービスを社会に提供します。

オカムラの強み

# 人を想うことで 培われた3つの強み

「人を想うこと」を源泉にした

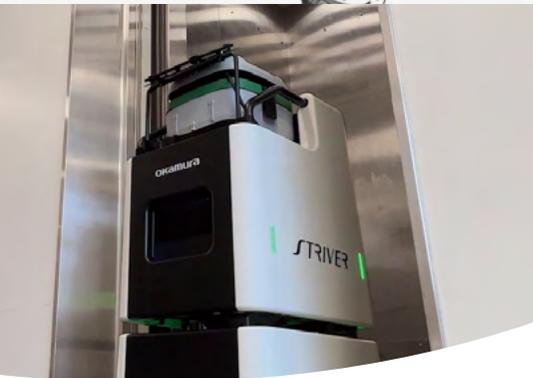
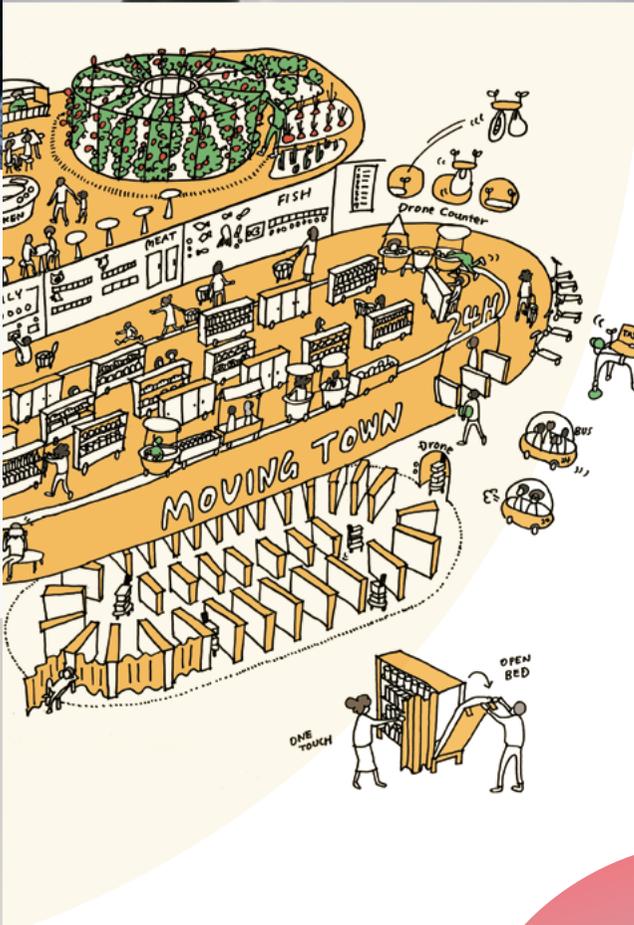
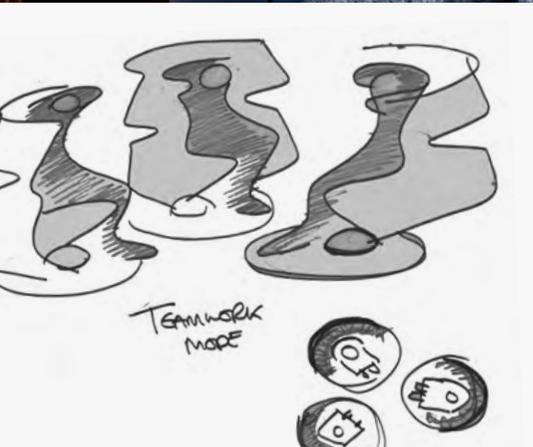
この3つの強みを磨くことで従業員が生き、  
顧客と社会が生きる好循環を生み出します。

顧客との  
信頼関係

顧客課題  
解決力

確かな  
ものづくり



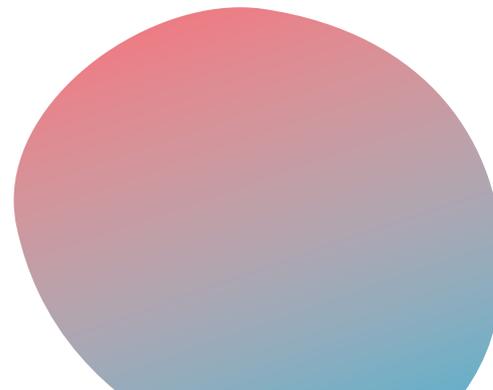


経営方針

## 新たな需要の創出

常にお客様に対して、また社会に対して  
「面白い答えが出せる会社」でありたい。

製品・サービスのあるべき姿を形にするデザイン力と提案力、  
品質を担保する高度な生産技術と安定した供給力、  
これらにさらなる磨きをかけ、  
新たな価値の提供に挑戦し続けます。



## 「オカムラグループ 統合報告書2024」の発行にあたって

オカムラグループでは2023年より、サステナビリティレポートに加え、財務・非財務情報とグループの経営方針・経営戦略をより統合的に報告するため「オカムラグループ 統合報告書」を発行しています。

「オカムラグループ 統合報告書」は、株主・投資家をはじめとするすべてのステークホルダーの皆様へ、当社グループへの理解をより一層深めていただくことを念頭に編集いたしました。当社グループのパーパス（存在意義）「人が生きる社会の実現」を軸に、これまでの歩みや培ってきた強みが中長期に向けた事業戦略・成長戦略にどのように結び付いているのか、わかりやすくお伝えできるように努めています。

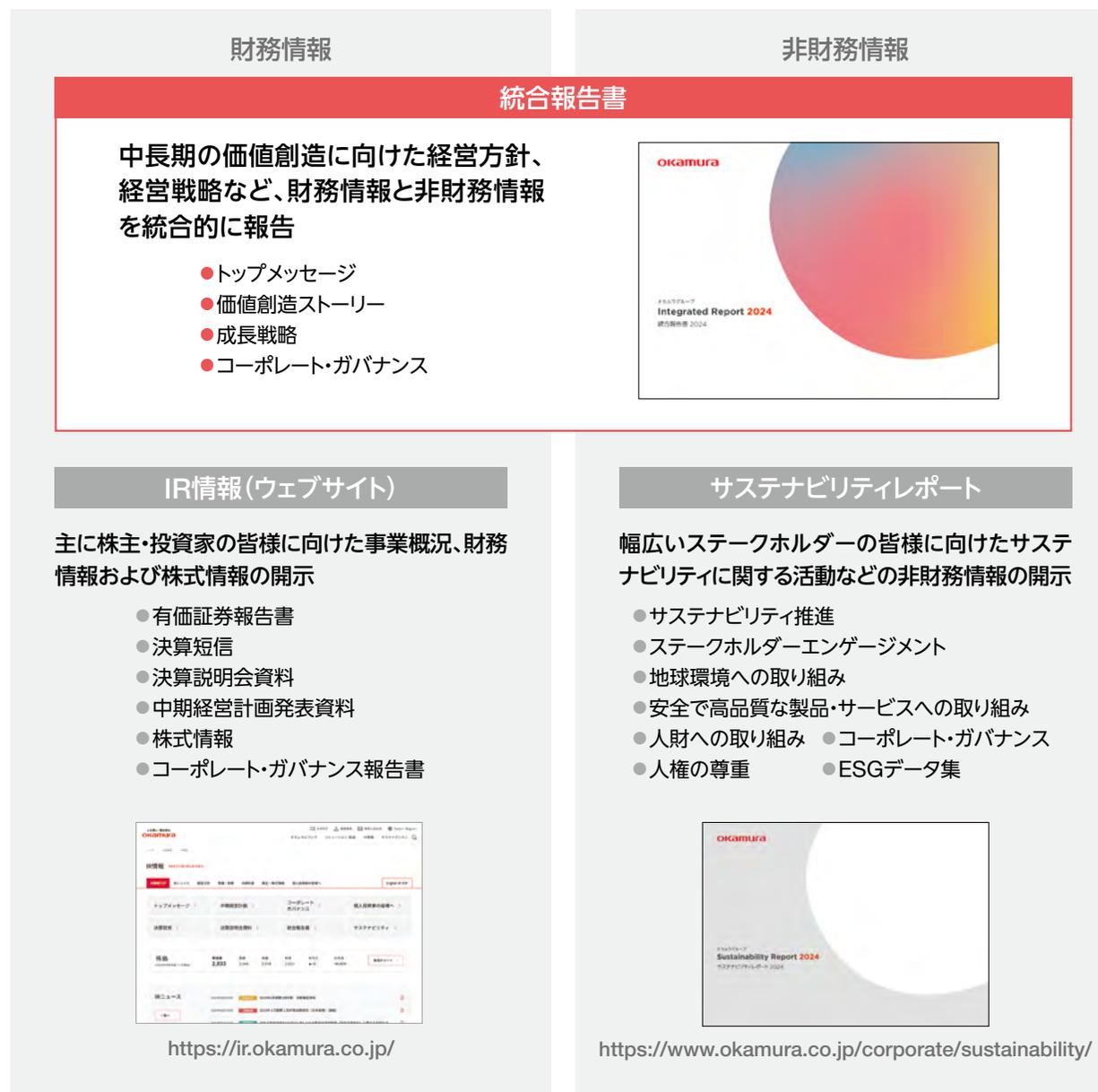
「オカムラグループ 統合報告書2024」では、2023年5月に発表した「中期経営計画2025」の進捗をお伝えするとともに、当社グループの持続的な成長に向けた価値創造プロセスや、各事業の具体的な戦略、それらを支える取り組みや体制について掲載しています。

統合報告書では「中長期の価値創造に向けた事業戦略」を中心に、またサステナビリティレポートでは「サステナビリティに関する活動」や「ESGデータ」などすみ分けをし、併せてご活用いただけるよう掲載内容の連携を図っています。

今後も、適切な情報発信を通じて幅広いステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを図り、当社グループへのご理解を深めていただき、企業価値のさらなる向上と社会課題の解決に取り組んでまいります。

本統合報告書を通じて、ステークホルダーの皆様との対話がさらに深まるきっかけとなれば幸いです。

### 情報開示体系



# Contents

## Introduction “人を想い、場を創る。”

成長に向けた 意志を語る	価値創造の 仕組みを紐解く	中長期の成長に向けた 戦略とその成果	企業価値向上を支える コーポレート・ガバナンス	
<b>1</b>	<b>2</b>	<b>3</b>	<b>4</b>	<b>5</b>
<b>トップメッセージ</b>	<b>価値創造ストーリー</b>	<b>成長戦略</b>	<b>経営基盤</b>	<b>財務・会社データ</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>8 トップメッセージ</li> <li>15 オカムラグループの事業</li> <li>16 数字で見るオカムラ</li> <li>17 社会からの評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>19 パーパス(存在意義)</li> <li>20 経営理念「オカムラウェイ」</li> <li>21 オカムラグループの強み</li> <li>22 オカムラグループのあゆみ</li> <li>24 培ってきた3つの強み</li> <li>26 経営方針</li> <li>27 解決すべき社会課題と提供価値</li> <li>28 価値創造ストーリー全体像</li> <li>29 オカムラグループの マテリアリティ (経営の重要課題)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>31 中期経営計画2025の概要</li> <li>34 事業別戦略</li> <li>34 オフィス環境事業</li> <li>37 商環境事業</li> <li>40 物流システム事業</li> <li>43 パワートレーン事業</li> <li>45 海外事業</li> <li>46 生産供給体制</li> <li>47 人事担当役員メッセージ</li> <li>49 DX担当役員メッセージ</li> <li>51 環境担当役員メッセージ</li> <li>54 財務担当役員メッセージ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>57 役員一覧</li> <li>59 コーポレート・ガバナンス</li> <li>65 社外取締役対談</li> <li>67 社外監査役メッセージ</li> <li>68 リスクマネジメント</li> <li>74 ステークホルダー エンゲージメント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>76 マテリアリティのKPIと進捗</li> <li>78 5年間の連結財務サマリー</li> <li>79 会社情報・株式情報</li> </ul>

### 参照ガイドライン

- 国際統合報告評議会 (IIRC) 「国際統合報告フレームワーク」
- 経済産業省「価値協創ガイダンス」

### 報告対象期間

- 2023年度 (2023年4月1日~2024年3月31日)
- \*一部の活動については、2024年4月以降の内容を含む

### 報告対象範囲

- オカムラグループ (株式会社オカムラおよび関係会社)
- 関係会社についてはこちらをご覧ください
- ▶ <https://www.okamura.co.jp/corporate/outline/group.html>

### レポート内表記

- オカムラグループ：株式会社オカムラおよび関係会社
- オカムラ：株式会社オカムラ単体またはブランドとしてのオカムラ

### 将来の見通しに関する注意事項

本レポートに記載されているオカムラグループの将来に関する予測・予想・計画は、記述した時点で入手できた情報に基づいた仮定ないし判断であり、これらには不確実性が含まれています。実際の業績は、経済状況や為替相場などさまざまな要因により、これらの業績予想と異なる可能性があることをご承知おください。